

気象庁ワークショップ

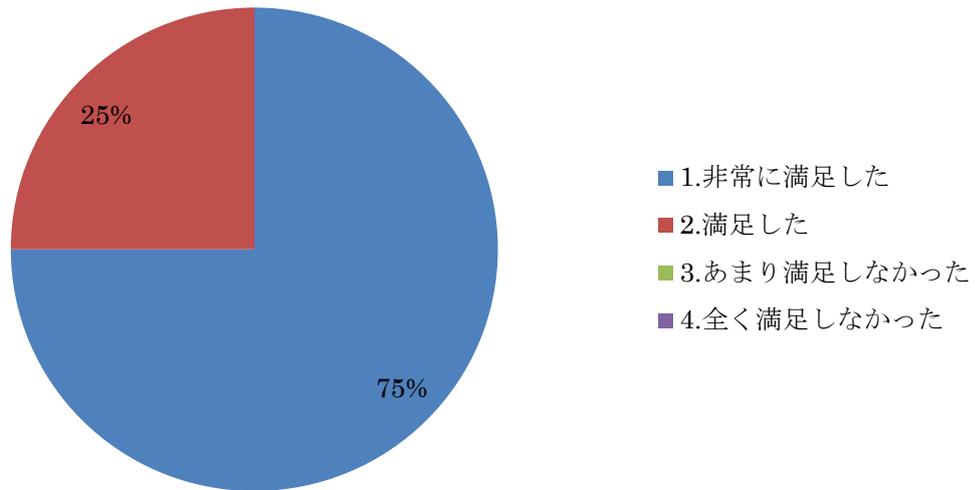
「経験したことの大雨 その時どうする？」実施状況

イベント名	第3回 防災士のための気象講座
実施日時	平成28年2月27日（土）13時20分～15時20分
場所	長崎地方気象台 防災連絡室（2階）
主催者	日本防災士会長崎県支部
対象	同支部会員
人数	16名
班数	4班
専門家	上野健志郎 防災管理官
ファシリテーター	小川亜希子 フリーアナウンサー／気象予報士
運営スタッフ	井口 元治（火山防災官） 前田 勝彦（気象情報官）

<参加者アンケート集計結果>

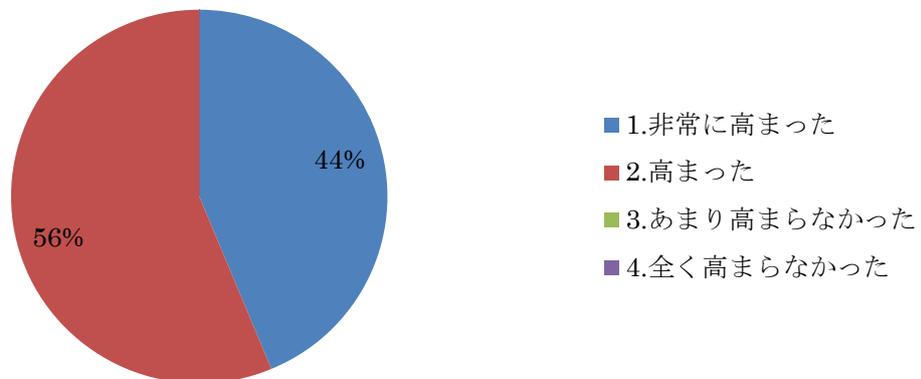
設問①

今回のワークショップの内容について、
どの程度満足しましたか？



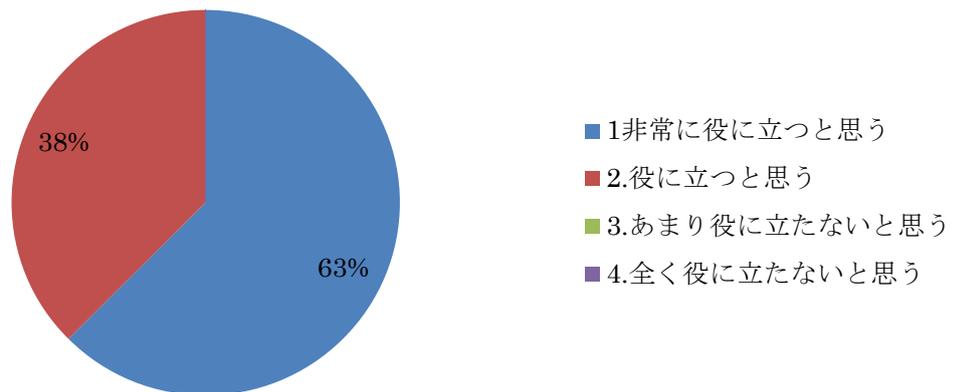
設問②

今回のワークショップを経て、防災に対する意識はどの程度高まりましたか？



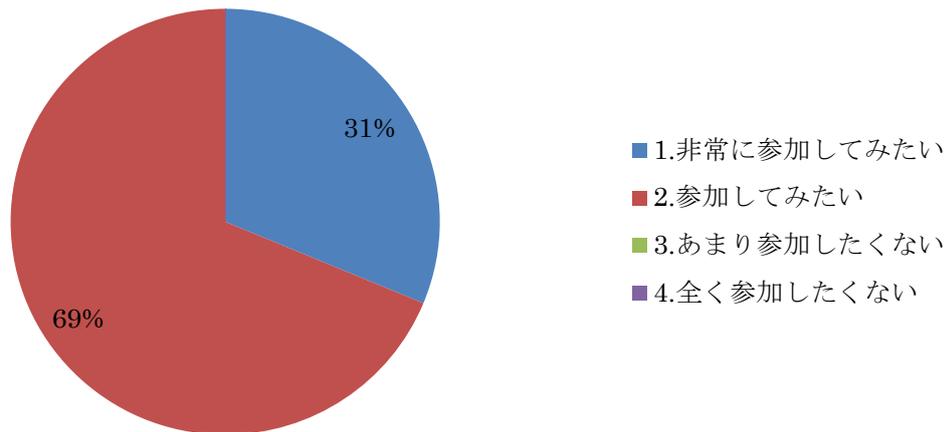
設問③

これから先、あなたが大雨にあった場合、今回学んだことは役に立つと思いますか？



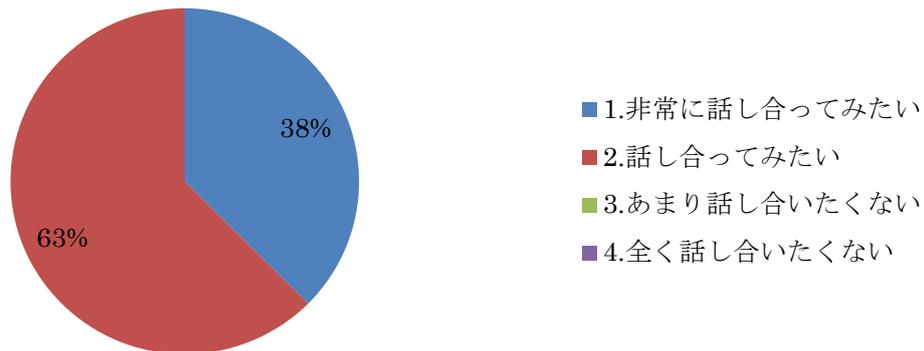
設問④

このようなワークショップに、また参加してみたいと思いますか？



設問⑤

大雨災害について友達や家族と話し合ってみてみたいと思いますか？



設問⑥

今回のワークショップを通して気づいたことや感じたことを教えてください。

防災意識啓発に非常に役立った。今後も参加したい。

自分の地域(団地)のことを、それぞれの災害に応じた対策を計画したい。本当は避難訓練までしたいのですが実行までいきません。

大人だけではなく、小学生等の小さな子供のときから遊びを通じてのワークショップができると思います。

ワークショップのやり方に最初とまどった。避難勧告等出されても「自分は大丈夫」という過信から従わない人が多いということを見聞きするが、自治会でも順守させたいと思う。

(以上、原文どおり)

<まとめ>

参加者は防災士の中でも意識の高い方が集まっている印象で、グループワークも皆積極的に取組み、講義も集中して聞いており、アンケートもこれを裏付ける結果となった。